

## 第2回富田林市観光ビジョン策定委員会

日時	平成 31 年 3 月 20 日 午後 2 時～
場所	富田林市役所 3 階 庁議室
委員	出席：和泉会長、橋川副会長、松井委員、阪口委員、瀬川委員（代理）、畑中委員、松下委員、赤崎委員 欠席：柴田委員
事務局	杉分部長、柳田次長兼課長、武部課長代理、中谷係長、中山、内藤

### ■開会のあいさつ

#### 議題 1 各種調査結果の報告について

<会長>

本日は各種調査結果と庁内調整会議の報告を受けることがメインとなり、続けてビジョンの構成案について説明いただきます。

報告に関してはあくまで結果の報告ということで、結果を分析して抽出される方向性のようなところまでの議論ではございません。結果の報告をお聞きいただき、こういう点に注目する必要があるのではないか、あるいは、この数値結果は重要だと思うなど、各々の専門的なお立場の観点からご指摘・ご意見等頂戴できればと考えております。本日の皆さま方のご意見・ご指摘をひとつの参考としまして、来年度、4月以降に出てくるビジョンの素案作成へとつなげてまいりたいと考えています。ビジョンの構成に関しましては、章立てのようなレベルでご提示されるようです。お気付きの点、ご意見等ございましたら、お願いいたします。

まずは議題 1、各種調査結果の報告について、事務局からご説明をお願いいたします。

<事務局>

各種調査の実施概要とWEB調査調査、宿泊者調査、インバウンド調査、統計調査、フィールドワーク開催結果概要について説明。

<会長>

ご意見・ご質問等、さまざまにご発言いただければと思います。まずは WEB 調査から、いかがでしょうか。

<委員>

インバウンドの件でもよろしいですか。インバウンド調査は高齢の方がほとんどですが、その要因は何でしょうか。

<事務局>

寺内町近くでバスの駐車場を作りました。その関係で、31年度分だけでも10件以上外国の方からのご予約をいただいている状況です。多くが外国のツアー会社で、富田林の観光コースとして組み込んでいただいております、そのツアーが長期間ということもあり、現役を引退されている年代、60～80代の方のご参加が多いのではないかと思います。

<委員>

WEB調査で、富田林市へ来訪した際の交通手段ですが、近鉄の次に新幹線の割合が高い、しかも利用率の差があまりないことに引っかかりました。

<事務局>

この調査対象は日本全国で複数回答ですので、当然新幹線をご利用の後近鉄に乗られる方もいるかと思えます。また、この設問は富田林市に観光で訪れたことのある方を対象としており、エリア別で見ますと、近畿地方から来られた方の割合が最も多くなっています。

<委員>

宿泊者調査で、富田林市内の次の場所に訪れたことがありますかという設問ですが、このデータが面白いと感じました。今回の旅行で訪れる予定で一番割合が高いのが寺内町ですが数値としては低いものです。皆さんどこに行かれていますのか、ビジネスで来ている人が多いのでしょうか。

<事務局>

アンケートにご協力いただいた宿泊施設に泊まることが一番の目的で、観光は二の次という方が多かったものと思えます。

<会長>

アジアよりもヨーロッパからの観光客が多いのでしょうか。

<事務局>

今来られている旅行代理店の方がヨーロッパからの観光客を担当されているのですが、やはり多いのはアジア圏だと思います。ただ、旅行の仕方が変わってきておまして、中国、韓国の方は個人旅行が主になってきています。どちらかと言いますと、ヨーロッパの方がまだ団体で富田林に来られることが多いように思われます。ホテルやアクセスの部分が個人旅行ではハードルがまだまだ高いと思いますので、今のところそういう流れで来ております。

<会長>

その流れでもう一つお伺いします。想像の範囲で構いませんが、なぜ海外のツアー会社さんが観光コースの一部に富田林を取り入れたと思われますか。

<事務局>

オーストラリアのツアー会社の方から伺ったのですが、関西では寺内町、関東では寺内町とよく似た実際に人が住んでいる昔ながらの町をツアーに入れているようです。

<会長>

今のお話の中で、委員の皆さまから補足することなどございますか。

<委員>

インバウンドの方々も初めての方からリピーターの方までいろいろと層が広がっています。欧米から関空への便が若干増えたり、新規就航していることもありまして、英語圏の観光客の方がここ1、2年は増えてきています。高い飛行機代を払って日本に来るからには、それだけ価値のある物を見たい、現地の歴史・文化、生活にふれたい、また、団体旅行の分刻みのスケジュールで動くのではなく、ゆっくりと時間をかけて町を巡りたい、そういった志向が強い傾向にあります。このように歴史・文化、地元の人々の生活に興味をもたれるということもあるので、大阪観光局からの情報発信においてもフェイスブック、ツイッター、ホームページで特集を組んで歴史・文化、また寺内町の町並み散策に重きを置いて発信しております。アジア圏では、ここ半年ぐらい今まで最も多かった台湾からの観光客が若干減ってきています。それはなぜかということと新規就航等で地方の空港へ流れていっているからで、関空を利用される台湾の観光客の方は若干減っているのですが、そのような方々もリピーターとして今までの定番ではなく自国では体験できないことを求められている傾向にあります。ターゲットのニーズに応じた情報発信をするように心がけております。

<委員>

富田林の強みは歴史的な観光資源が多く、大阪市内から至近距離にあるところだと思います。ただ、寺内町をはじめ回るスポットがたくさんあるものの、それぞれの間のアクセスがどうなのかというところがあります。また、駐車場が少ないというお話もありました。自家用車で来訪された方がこのデータでは多いのですが、実は駐車場が少ないとなると、ちょっと残念なことかと思えます。私は大阪市内に住んでいるのですが、富田林市というのはやや知名度が低いかと感じております。せっかく昔ながらの町並みをご覧いただけるので、空き家対策も兼ねて飲食店を入れるなどすれば、もっとよくなるだろうと思います。近鉄電車を利用される方も多いと思いますので、近鉄電車内の吊り広告をうまく活用すれば、富田林に行きたいという方がもっと増えてくるのではないのでしょうか。

<会長>

富田林に限らず、インバウンドというのは観光ビジョンの中でしっかりとふれていくべき分野だろうと思います。

<委員>

データをいろいろ見せていただきましたが、とてもよい流れが来ているのではないかという感覚があります。WEB調査で富田林の知名度が載っていますが、「名前だけははっきりわかる」と「聞いたことはある」を合わせると、すごく高い割合ではないかと思えます。また、皆さんよくよくご存じだと思いますが、フリーアンサーのところを見てみると、ニュースで富田林を知ったということが強く出てきています。もう少し細かく見ていくと、富田林市を知ったきっかけ、属性別では20～39歳でTV番組を通して知った割

合がすごく高く出てきていまして、宿泊客のデータでは年配の方がリピートされている状態ですが、若い方も富田林を認知してくれているという現状があるかと思います。そのターゲット層に対しても、今すぐであれば「あの富田林」というような形でアプローチができるのではないのでしょうか。

<委員>

中国、韓国の行政機関の方が寺内町の昔ながらの建物の保存状況を視察に来られたりしています。台湾の大学関係で来られている方もいますが、地元で泊まる場所がないので、どうしてもどこかへ行く前にちょっと寄る、あるいは帰りの飛行機の時間に合わせて寺内町を見るような形で、じっくり時間をかけて観光するというのは団体客の場合は少ないですね。富田林の宿泊施設の中には、バス1～2台分くらいのお客さんが泊まれるキャパシティがあるのですが、大阪市内で泊まってこちらを通りすぎるというような状況になってしまっています。ですから、滞在時間が短く、見学の途中で飲食店に寄ってコーヒーを飲んだり食事をする団体客というのは、ほとんどいないように思います。女性限定の宿もあり、欧米系、中国系の方が1人旅か2人で来られていることが多いですね。そこで泊まって食事もできて昼間は奈良や京都を観光して夜戻ってくる、少人数の場合はそういう利用もされており、そこそ外国の方も増えています。

どこでも空き家の率が高くなってきておりますが、寺内町の場合はその空き家が非常に大きな建物ですので、維持をどうしていくかが問題になっています。民泊も検討されているのですが、管理をどうされるのでしょうか。ネットで予約されたから貸したけれど管理者がいないという状況では近隣住民の皆さんにご迷惑がかかるので、お客さんがいる間きちんと管理してくれる人がいるかどうかをネックになっているように思います。2軒ほど民泊に使ってはどうかという構想も出ているのですが、どのような運営の仕方をされるかが気になっている状況です。

<委員>

民泊の話ですが、町村が民泊に力を入れられているということで、当地域だけではなく全国的に広まりつつあります。特に大阪は2025年の万博が決まったわけですから、それに向けて各行政、地域の団体等インバウンド効果を期待されていることと思います。万博以降もそれを継続していく必要があり、なかなかハードルが高い面もある民泊ですが、そのハードルを取り除いていくことが今後の課題かと思っています。

知名度についてですが、20～30年前であればPL学園が全国的に知名度が高く、PLといえば富田林ということで、富田林の認知度もかなり高かったと思います。去年は富田林警察の事件の関係で認知度が上がったと、WEB調査の自由回答からうかがえます。

富田林を知ったきっかけとしてフェイスブック、ツイッター、インスタ等のSNSも挙がっていますが、最近では若者だけではなく高齢者の方もスマホで検索をかけて調べておられるので、このツールをもっと有効に活用できればと思っております。

<会長>

民泊の話が地域でご活躍の方々から出ましたが、寺内町で実際に活動されている中で民泊というものをどう捉えておられますか。

<委員>

個人的には民泊は要らないと思います。一瞬の盛り上がりはあるでしょうが、観光公害の問題も出てきますし、日本の観光地が台無しになってしまいます。ただ、泊まる場所がないというのは弱みだと思います。ターゲットをどこに絞るか、日本人を呼びたいのか、インバウンドを呼びたいのかですね。ファムトリップで香港のインフルエンサーを呼んだのですが、体験は喜ばれました。彼らは割り切っているので寺内町を見てサバーファームでフルーツ狩りをして食べて帰る、そのスタンスでよいのではないかと思います。

<会長>

いろいろなお立場からさまざまなご意見があつて当然ですし、その辺りを踏まえてビジョンを策定されるべきだろうと思います。

<委員>

インバウンド対策で看板を増やしすぎて困っているところもあります。マナー喚起や宣伝の文言を日本語、英語、中国語以外にもどんどん増やし、12か国語で表示して看板だらけになっているそうです。インバウンドを呼んでお金を落としてもらうのも有りですが、観光公害のような二次的な問題も生じます。ですから、ただ単に来てもらうことが本当によいのだろうかと思います。

<会長>

この間北海道の標津町に視察で行きました。カヌーに乗れるなど大自然を満喫できるような体験がたくさんできるので、そこを周知するために看板を立てようということになったのですが、大自然の中に看板はそぐわないのではないかという話になり、そこでQRコードだけを載せた紙を木などに貼り付けて、それをスマホで読み取れば説明を受けられるシステムにされました。このようにいろいろな事例があります。細かい点までは難しいかもしれませんが、ビジョンの中で地域がよりよくなるような方向性の記述ができないかと思うところでございます。

<委員>

寺内町の古い建物10数戸が、それぞれの家の板壁に建物の案内のプレートを付けています。伝統的建造物として登録されている建物が200棟ほどあるのですが、その全てに説明板を付けると、それこそ看板だらけの町並みになってしまいます。そこで、全部の説明をQRコードでまとめて順番に回ってもらってはどうかという話をするのですが、そこまで費用をかけられないと言われ、予算の関係でつまずいております。その辺り何とかクリアする方法を考えていかなければならないと思います。

## 議題2 庁内調整会議の報告について

<会長>

議題 2、庁内調整会議の報告について、事務局からご説明をお願いいたします。

<事務局>

このたびの本市観光ビジョン策定にむけ、庁内組織として庁内調整部会を設置しております。主な構成メンバーは、政策推進課、都市魅力創生課、情報公開課、道路交通課、農業振興課、文化財課、商工観光課の7課で、実際に業務の中で観光に関わっている課で構成し、その都度、関係課には入っていただくこととしており、これまで、3回の庁内調整会議を開催しました。

第1回の会議では、観光ビジョン策定にむけて動き出したことを報告し、東京オリンピック・パラリンピックや大阪万博など、大阪へ多くの観光客が訪れる状況が考えられるので、このような流れの中で、本市の観光資源に磨きをかけて積極的に推進していく必要があるだろうと認識しています。しかし、観光客の受け入れなどのハード整備、イベント事業などのソフト整備、また、中心となって事業に取り組んでいただくリーダーの育成など、様々な課題があることも会議の中で確認しています。

第2回の会議では、インバウンドについて話し合いを行いました。意見としては、受け皿の整備と情報発信をバランスよく進める必要があり、本市の現状は SNS など手軽に情報を発信しているが、外国語の対応した案内板がない、ガイドマップがないなど、バランスが取れていないなどの課題が出されています。特に大阪で開催される大阪万博は国内外から多くの方が来られます。これらの方をどのようにして富田林市に誘導するか、また、本市の経済に効果的な手法があるのか、などの意見がありました。こういった、『遊ぶ』『食べる』『観る』『泊まる』という観光の原則とも言われていることを実施することが大切であり、これらを繋げることによって経済効果が現れるという意見もありました。

第3回の会議では、4つのテーマで話し合いを行いました。

一つ目は富田林市における「観光」の位置づけの明確化についてということで、富田林市には、寺内町や神社などの歴史的遺産が数多くあり、生涯学習としての活用がされている。特に寺内町は町としてのポテンシャルは高いが、観光という視点で見たときの整備はまだまだと感じるといった意見が出ています。また、住民の生活空間としての観光のあり方を考えていかなければならないだろうという意見もありました。さらに、自然遺産を活かした観光としては、サバーファームの活用について意見がありました。開園から26年経ち、施設の老朽化も課題になってきている。最近では農業公園の活性化会議なども開かれていることから、観光ビジョンとの整合性には注意していただきたいという話をしていきます。

二つ目に成果指標の設定については、市の総合ビジョンや総合戦略との整合性を図る上でも、また、事業全体を PDCA サイクルで回していくためにも成果指標は重要であるといった意見も出ています。

三つ目は計画の概要・期間と構成・重要戦略の設定についてですが、観光ビジョンは市の総合計画に基づいて策定する計画であり、それに沿う形で、重点戦略を設定し、進めて

いくほうがよいという意見が出ています。

最後の四つ目として、ターゲット層の設定方法についてですが、計画としてターゲットを設定することは難しいと考えるが、ターゲットをどのように設定するかなどの方法をビジョンに書いていけたらいいのではないかといった意見が出ました。今後も庁内会議を開催し、策定委員会でご報告させていただきます。

<会長>

ご質問等ございますでしょうか。

<委員>

ターゲットを明確にできなければ、ゴールが見えてこないと思います。もちろん全員に来てもらえれば理想的ですが、そもいかないので、ターゲットを絞るための調査であり、データではないのですか。一番強いところに踏み込むのもひとつの方法ですが、一番弱いところにアプローチしていくというのも新しいやり方だと思います。富田林には古墳もありますし、そのマニアを狙う方法もあるのではないのでしょうか。そういう観光資源が富田林には結構あるので、ターゲットを絞り込むほうがゴールは近いかと思います。

<事務局>

ターゲットを絞り込むことは事業を行っていくうえではあるのですが、調整会議で出ていたのは計画の柱としてターゲットを設定するのは難しく、ターゲットを設定する方法を柱の一つに入れてはどうかということです。ターゲットの設定につきましては、アクションプランに盛り込む場合も出てくるかと思います。

<会長>

調整会議の中で成果を測る指標をしっかりと定めなければならないという意見が出たとのことですが、成果を測る指標についてはいろいろな研究者が持論を展開しています。その中でわかりやすい事例を申し上げますと、例えば入館料が要る古民家があって、そこを指標で測る場合は当然入館者数が目安になるわけです。今まではどれだけの入館者がいてどれほど入館料があったかを成果のひとつとして捉えていましたが、うちの研究者の間で議論になっているのが、入館料が高いので入らないけれど、その前で写真を撮ってSNSで拡散する人がたくさんいれば、それは成功ではないかということです。難癖を付けるようなお話かもしれませんが、今までの指標の見直しというのが総合計画の策定の中でも出ています。今、私は大阪府内の数か所で総合計画の審議会委員をさせていただいているのですが、そういう議論が結構多いので、いろいろな市町村の指標をご覧になられて設定していくのがよろしいかと思います。

庁内調整会議というのは定期的には開催されているものですか。

<事務局>

はい。策定委員会の前に開催するよう予定を立てております。また、不定期ではございますが、庁内でこのテーマについて話し合いたいというときにも開催するようにしています。

### 議題3 計画構成(案)について

<会長>

議題3、計画構成(案)について、事務局からご説明をお願いいたします。

<事務局>

まず、ビジョン策定の目的や基本方針などを明記し、富田林市の観光における将来ビジョンをはじめに示したいと考えています。現在、本市には市の計画として平成29年度から10年間を計画期間とする総合ビジョンがあります。その中に29個の個別施策があり、その1つに「地域資源を活かした観光の振興」という柱があって、目標実現のための施策として、①歴史的資源を活かした観光振興、②自然資源を活かした観光振興、③外国人観光客の誘致と掲げています。この総合ビジョンとの整合性を図っていくためにも、重点戦略として、同じくこの3つをぜひ、柱にしていきたいと思っています。そして、もう少し掘り下げ、実際に取り組んでいくアクションプランを示していく予定です。

<会長>

まとめて整理するという立場上ではございますが、少し申し上げたいと思います。基本的にビジョンとは地域や市民と共有できるものでなければならないと思います。つまり、わかりやすいものでなければならず、決して行政の人にしかわからない読み物にとどまってはいけないと思います。行政がやりますみたいな印象を与えてはならず、こんな方向性で我々は考えていますが、それを皆さんと一緒にやっていきたいというような、つまりビジョンをつくることによってさまざまな地域のアクターが登場するきっかけ、いわば観光の台本の位置付けでよいのではないかと常々考えております。登場人物はアドリブで大丈夫です。ご自分のアイデアでアクションをする、つまり台本でいうと楽しいシーンが描かれていたら踊っても笑ってもよく、地域の方々がご自身のアイデアでもってしてそこへ参画していく、正式な計画名の後に「富田林観光物語」とサブタイトルが付く台本のような体裁にしてもよいのではないかと思います。それだけでも「この観光はきっと面白い」と伝わるような気がしています。もちろん賛否両論あるでしょうが、私はそのように考えております。体裁やタイトルはさておき、さまざまなアクターが登場するきっかけ、読んだ人が「私たちならこれができそうだ」と当事者意識を感じ自己決定できることが大事だと思います。自分の論文や学会発表では「可能性の提示」と述べております。ですから、可能性が提示されている冊子を目指したいと考えています。これをこの委員会の姿勢のようなものにできないかと思ったりもしています。とにかく、いろいろな人がこれをきっかけに登場するようになる、そういう位置付けの冊子作りを考えております。

ところで、まずは読んでもらわないと始まらないわけですが、幾ら冊子を読みやすくしても多くの方に読んでもらうところまでつながらないのが実状であります。そこで、これは珍しいことではありませんが概要版の作成が不可欠だと思います。この件につきましては委員の皆さま方に賛同していただきたいところでございます。ここで意識すべき

は、課題や問題の列記はやめるということです。これは間違いありません。つまり、現時点での取組ですばらしいものはどんどん取り上げるべきだと思います。例えば寺内町であれば、もちろん方向性を示す中でクリアすべきさまざまな課題・問題はありますが、それだけではなく、良い話も積極的に取り上げる必要があります。概要版では顔写真やコメントも載せるなど、それを見た人々が「こんなことやってるんだ。私たちにもできるんじゃないか」と思う、できる・できないは別として、そういうイメージを描いています。つまり、さまざまなアクターが登場するきっかけになってほしいということです。

本当に進めていくための計画ですので、市として考える方向性をお示ししながらも、他方では地域のアクター自身何ができるかわかる、自己決定ができるようになってほしいですし、人と人、資源と資源がつながる、そんなビジョンになればという願いを込めたいと思っています。

体裁等の問題については予算の関係や行政的なご事情がありますので無理は申し上げませんが、概要版を作っていただくことと、楽しさや面白さを備えたビジョンを作成してみたいと私自身は考えています。

<事務局>

わかりやすい内容で、市民の方にもご覧いただける楽しいビジョンの作成を目指していきたいと思います。31年度で観光ビジョンは完成するわけですが、我々商工観光課の職員にとってのこの観光ビジョンというのは、その段階ではまだまだ未完成であります。今回の計画期間は5年なのですが、その間いろいろな方のお知恵をいただきながら5年後に完成させようと考えまして、現在取り組んでいるところでございます。

概要版につきましても、もちろん計画しておりますので、作成する方向で調整をさせていただきますと思います。

<委員>

これはまだ総論の段階ですよ。

<会長>

はい、4月以降に素案が上がってまいります。

<委員>

インバウンドの方も含め富田林を観光するお客さんをたくさん呼びたいということですよ。今のままでははっきり言って何も変わらないと思います。何を換えればよいかという議論をしていかなければならないのではないのでしょうか。物や形として残らなくても、ソフトでもよいと思います。富田林に来れば英語が通じるというのは目玉になります。例えばたこ焼き屋さんに行っても英語が通じるとなれば、外国の方がいっぱい来ます。そういうことをもっと考えるのがビジョンだと思います。

<委員>

これからコンセプトやターゲットを明確にしていかなければならないと思います。

<会長>

そこへ行き着くためのステップの一つとして、このビジョンを作るわけでございます。もちろん具体的な内容をアクションプランの中に盛り込むことは可能ですが、その辺りの詳細な議論はこれからスタートとなります。

#### 議題 4 その他

<会長>

議題 4、その他についてご連絡事項等ございますでしょうか。

<事務局>

今後の予定でございますが、策定委員会につきましては来年度に 4 回程度の開催を予定しております。また、ワークショップの開催も予定しておりますので、今後ともご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

もう一点ご報告させていただきたいことがございます。じないまち四季物語が、ふるさとイベント大賞の選考委員特別賞を受賞されました。全国 144 件の応募の中から選ばれた輝かしい賞であります。じないまち四季物語実行委員会と申しますのは、寺内町界わいにおける地域の方々、商業者が中心となった委員会で、地域の団体や行政などと連携し、歴史・文化と調和したにぎわいと落ち着きのあるまちづくりを目指し活動されておられます。四季にわたるイベントを年 4 回、いずれも 10 回以上開催されておられまして、地域の活力を生み出すイベントとして表彰されたものでございます。このようなイベントを行うにあたりまして、本策定委員に入らせていただいている大阪観光局さんをはじめ近鉄さんにもご協力をいただいておりますので、今後とも引き続きご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

<委員>

じないまち四季物語が大きな賞を受賞しました。寺内町燈路を 8 月に実施していただき、これが一番長く続いております。今年の 8 月にまた NHK が取材に来るとも聞いておりまして、一段と寺内町が注目されるのではないかと思います。しかし、このイベントも期間が過ぎればクモの子を散らすように人がいなくなって、また静かな寺内町に戻るといってございます。燈路だけは毎日あってもよい、夜に寺内町を歩くとろうそくの灯りが非常に心優しく思えるというお声もいただいております。また、大阪観光局さんをはじめ府内の各団体からご声援をいただく中、寺内町を映画のロケ地として使っていただきました。興正寺の門前と旧杉山家住宅の前の 2 か所を撮影場所に選んでいただいたので、出来上りを楽しみにしております。ヒットして寺内町だけではなく富田林の PR になるのではないかと期待しております。

<会長>

その他、本日の議事全体に係りましてご意見・ご質問等ございませんでしょうか。

<委員>

(ご意見なし)

<会長>

多数のご意見をいただきまして、ありがとうございました。皆さま方のご協力により審議を無事終えることができました。

以上をもちまして、本日の議事を終了させていただきたいと思えます。

<事務局>

ありがとうございました。先ほどのご意見の中でも出ましたが、富田林で事件がありまして、一躍全国的に有名になったわけでございます。ピンチをいかにチャンスに変えるかが重要だと思います。

富田林の観光PRポスターが全国で入選し、引き続いて、じないまち四季物語がふるさとイベント大賞で受賞するなど、まさに富田林という名前を全国にとどろかせたわけですから、今後これらを大いに活用していきたいと考えております。

委員の皆さま方には、お忙しいところご出席をいただきまして、また、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

以上をもちまして、本委員会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。